

《令和元年度 茨城支部ニュースレター 12月号》

令和元年年 12月14日(土)に日本臨床発達心理士会茨城支部
「令和元年年 第3回資格更新研修会」が行われました。

- 1 場 所：笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」
- 2 研 修：事例検討会「アーレン症候群の高校生（女子）」
- 3 講 師：筑波大学 熊谷恵子先生
- 4 参加者：14人（会員）

5 内 容

(1) 事例報告

- ・美術大学に進学したいと考えているアーレン症候群の生徒についてこれまでの経緯、現状、かかえている家族を含めた環境などについて報告がありました。
- ・本人の思いと現実がなかなか合わず、どのように今後支援が必要かといった主訴でした。

(2) アーレン症候群について

- ・事例報告の後、アーレン症候群について、専門に研究し、著書も出されている熊谷恵子先生より、具体的にかかえる状態と課題が分かりやすく説明されました。
- ・色覚多様性（色覚異常）とは異なり、むしろ色に過敏性があり、“減光”という対応が必要であるという説明がありました。

(3) 事例検討

- ・A, B, Cのグループに分かれ、事例検討が行われました。
- 熊谷先生と報告者の穂積先生がグループを回って質問を受けながら、現状の把握、支援計画の検討が行われました。

(4) 各グループ発表

- ・本人による自分の能力・特性を理解する必要性（情報収集・分析力の不足など）
 - ・本人の特性に関するセカンドオピニオンの必要性
 - ・本人への一貫した支援（含カウンセリング）を行う第三者の必要性（受験、大学入学後、大学卒業後）
 - ・大学受験における特別措置申請（在籍高校を通して申請）
 - ・母親への支援
- など、必要なことがいくつも提案されました。

(5) 熊谷先生よりまとめ

事例検討に基づいて、さらに熊谷先生よりアーレン症候群の抱える状態、就学前の発見から、学齢期、就労後の課題など、様々な情報提供がありました。

また一つ、アーレン症候群の事例を通して知識が広がった思いです。
そのような状態に苦しむ子を発見していく努力も今後していきたいと思えます。

今年度は今後、石隈利紀先生、榎原洋一先生をお呼びしての研修会を予定しております。

※榎原先生の研修会は台風で延期となった為、前回申し込みの方を優先させていただきます。

随時ご案内していきますので、ぜひご参加ください。お待ちしております。

文責 河村 要和
